

人の一生は曲り角だらけだ

山本周五郎

裏面もご覧ください。

生命いのちの言葉 七月

小説『ながい坂』の中の台詞。
初めて挫折した時、きつと落ち込むだろう。
しかし気にする必要はない。
人の一生とは決して真っ直ぐなものではなく、
そうした曲り角の連続なのだから。

山本周五郎 (やまもと しゅうごろう)

明治三十六年(一九〇三)〜昭和四十二年(一九六七)。
小説家。本名、清水三十六(さとむ)。小学校卒業後、
銀座の山本周五郎商店へ奉公に出、そこで同人誌
を書き始める。庶民の人情を描き、また歴史小説に
も優れた作品を残した。直木賞他全ての賞を辞退
し、生涯一つとして賞を受けとることはなかった。

杏子の実のなる季節、ご参拝の皆さまに実り多きことを祈ります